

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：岡山県広域 里山・里海学習体験型コミュニティプロジェクト
「OKAYAMA SATOYAMA-SATOUMI UNIVERSITY プロジェクト」
- ・実施主体：一般社団法人 北房観光協会 ・対象地域：岡山県真庭市・備前市・笠岡市
- ・対象とする良好な環境：「令和の里海づくり」モデル事業、残したい“日本の音百景百選”

地域の現状・課題

水で繋がる真庭市北房、備前市日生、笠岡諸島はいずれも過疎化が進み入込数が少ない地域。良好な水環境の保全のため、瀬戸内海の水質の維持・栄養塩の管理・アマモ場の再生、健全な里山作りが必要であるが、事業費や人材の確保が困難な状況であるため、3エリアの効果的な連携による、保全活動の体験プログラム化とその発信、人材育成が必要。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

3エリア広域連携によるコミュニティ運営団体が設立され、国内外の自然関心層や教育団体・企業が訪問し学習体験ができる環境を整備し、3エリア間連携による新たな保全プロジェクトやツアー、体験学習による活発な活動が持続的に実施されている状態を目指す。

実施項目（事業内での取組）

- 広域3エリアの横断組織の設立準備
- 営業戦略の策定及び検証
一般販売・受入モニター実施
キックオフイベント開催
- 受入人材の育成・拡充
- 保全との連携体制（運用）の構築

R9：横断組織設立 サイト運営ツアー・コンテンツ販売開始
（事業期間終了後）

R8：3エリア横断組織 設立準備ツアー・コンテンツ販売準備

R7：体制構築 体験プログラム造成 初期PR

実施項目（事業内での取組）

- 広域3エリア連携による体制構築
- 広域コミュニティのストーリー及びコンセプトの形成
- 体験プログラム造成検証（国内外有識者モニター実証）
- 初期PR体制構築（WEBサイト立上げ・関連サイトでの発信）

実施項目（自走化）

- 広域3エリアの横断組織設立・サイト運営
- 継続したコミュニティフォロワーの獲得活動
- 国内外の教育団体・企業の受け入れ実施
- 体験ツアー・コンテンツ販売

対象となる良好な環境の概要



- 真庭市北房では 長年のホタル保護活動、鍾乳洞から瀬戸内海へつながる水環境を保護するための川ゴミ拾い活動が行われ古代からの人と自然の共生を示す古墳、史跡が豊富。バイオマス SDGs 脱炭素先進地。海を意識した森づくり事業がスタートしている。
- 備前市日生は古くからの漁師町。全国でも先進的にアマモ場の再生を行ってきた。牡蠣の生産が盛ん。「五味の市」という海鮮市場が有名で備前焼、閑谷学校など文化の盛んなエリア。
- 笠岡市諸島は古くからカブトガニの保護地域として有名。海洋生物の多様化、再生ため海洋牧場事業が行われている。白石島では無形文化財の白石踊りなどがあり北木島では牡蠣の特殊冷凍技術が開発され年中、生牡蠣を提供できる技術があり海外からの注文も始まっている。

良好な環境に係るストーリー

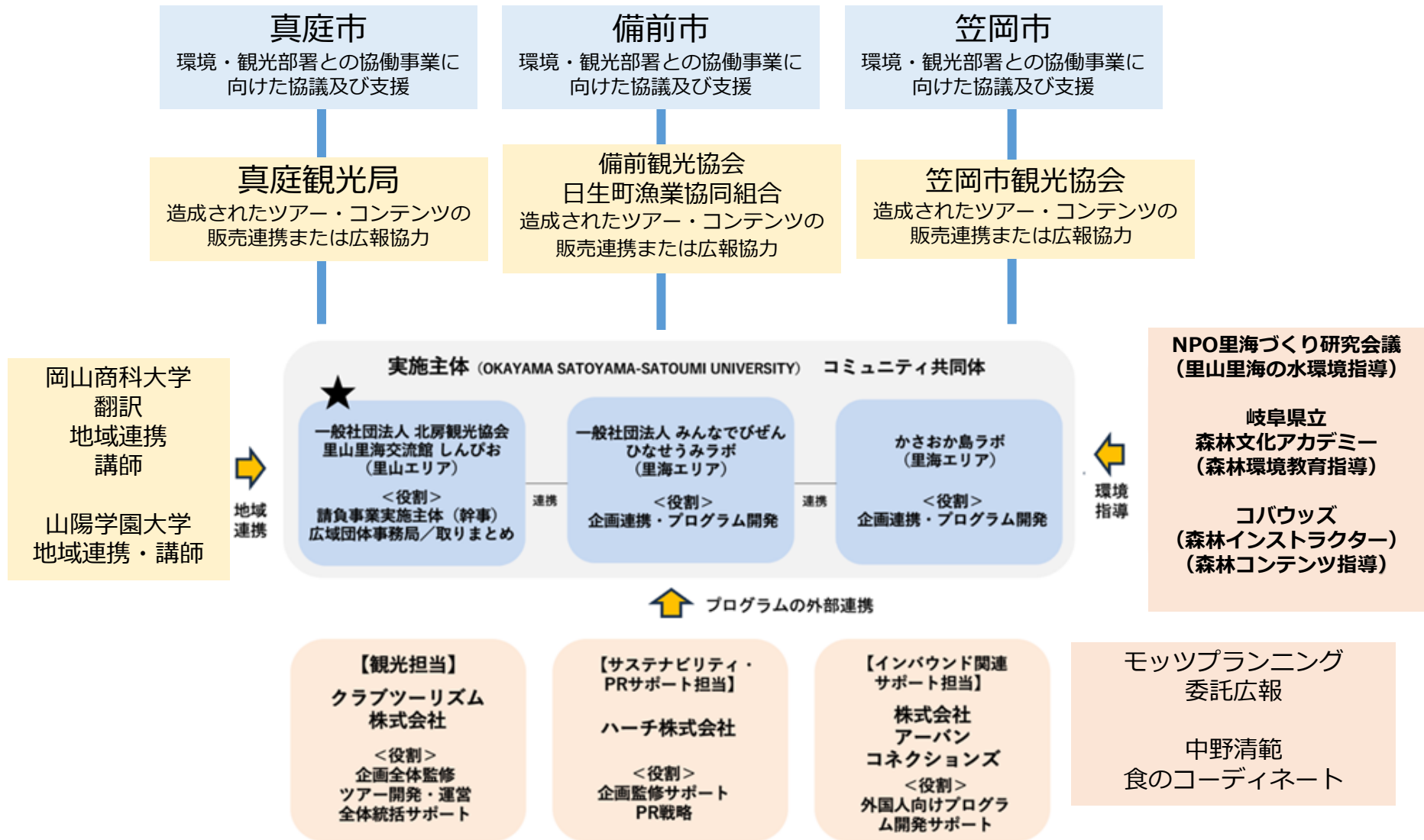
真庭市北房の鍾乳洞や森から流れ出る栄養塩が、川を通じて瀬戸内海の生態系に大事な役割を果たしてきたことや、その環境を里山里海の先人が献身的に守ってきたことを、多くの人に知ってもらうために、里山里海の連環をテーマにしたツアー/コンテンツを造成して募集販売します。楽しく学び体感するプログラムを実施することで、保全に関わる人の増員、人材育成につなげます。3エリア横断のコミュニティ組織、webサイト（インバウンド/会員募集/会員活動ページ等を含む）を構築して広く拡散します。

〈真庭／里山エリア〉長年続けられているホタルの保護活動への参加～ホタル観賞体験、源流である鍾乳洞や滝周辺での自然体験と座学、学術をベースにした森の中での座学、間伐体験、日生の牡蠣殻を粉砕して作った肥料を、北房の田んぼに撒いて育てた真庭里海米を使った「森で食べる羽釜ごはん体験＋里山里海の栄養連環座学」、牡蠣の養殖に使う牡蠣いかだの材料を、森から伐採して漁協に納品する工程の中で、檜の皮むき体験などをプログラム化します。

〈備前／里海エリア〉海への関心や好奇心喚起につなげ、次世代を担う子供たちが海をより「自分ごと」として捉え、海を未来へ引き継ぐ行動の輪を広げます。アマモの再生に関わる体験座学と実際に漁船に乗ってアマモに生息する魚介類を観察する体験、アマモの苗を作る苗ポット作り、アマモの再生活動に参加してもらい自分事としていただきます。更に海ごみを回収する体験や海ごみを使ったアートワークショップなどを体験いただきます。

〈笠岡／里海エリア〉海洋牧場をはじめとする実験の様子を実際に漁船に乗って観察する体験、地引網体験、干潮時での島渡り、アマモ場見学などの体験と座学を実施します。

実施体制（図示）



【R7年度取組】

広域3エリア連携による体制構築 【実施中】

- ❑ 3エリア合同プロジェクトチーム（分科会含む）の構築
- ❑ コミュニティ連携機関との連携推進
- ❑ 地域住民と関係事業者向けイベント開催（11月末実施予定）

広域コミュニティのストーリー 及びコンセプトの形成 【実施中】

- ❑ ストーリー・コンセプトの考査および見せ方の考査（WEBサイト等）
- ❑ 外国人来訪者に対する受け入れやコンセプトのインプットについての考査

体験プログラム造成検証 （国内外有識者モニター実証） 【実施中】

- ❑ モデルツアーにおけるモニターの実証
- ❑ モニターツアーの結果を踏まえたコンテンツ等の再検討
- ❑ モデルツアープログラムの造成
- ❑ 多言語対応や多文化適応を見据えた体制整備、料金体系の構築

初期PR体制構築（WEBサイト 立上げ・関連サイトでの発信） 【未】

- ❑ WEBサイトの立ち上げ
- ❑ コミュニティPR戦略の策定及びPR実証
- ❑ 販売戦略に基づくコミュニティ運用テスト

特に工夫した点・取組成果

- ❑ 3エリア合同で情報交換できる体制を整えた。また分科会も設置し、役割・責任区分の明確化を図った（※詳細は7頁）
- ❑ 外部企業団体3社との連携窓口ができた
- ❑ 地域住民に活動紹介するイベントを実施予定（11月末）

特に工夫した点・取組成果

- ❑ 海と山を守る「人」にフォーカスした体験を通じて、ストーリーが理解できる方法（提供価値の言語化・可視化）を検討（P9に記載）
- ❑ 外国人誘客専門家の意見を反映したコンセプト設計の検討

今後のスケジュール

- ❑ モニターツアー2回実施予定（11月）
- ❑ モニターツアー参加有識者フィードバックからツアー再検討（～12月）
- ❑ 北房日生、北房笠岡ルートモデルコースを造成（1月中旬予定）
- ❑ 11月～岡山商科大学にてWEBサイト等の多言語対応の翻訳作業開始

今後のスケジュール

- ❑ WEBサイトを公開（1月中旬予定）～運用
- ❑ コミュニティPR戦略策定
コミュニティメンバー募集（1月中旬予定）
- ❑ サステナブルメディアから、外部PRの第一歩として、記事発信（1月中旬予定）

R7年度のゴール

- ❑ 現場の説明コンテンツの多言語化、連携先含めツアー全体のストーリー化、WEB発信
- ❑ 広域3エリアにおける運営体制、ストーリーの完成、来期の販売運用検証に向けての各種準備完了（体験コンテンツ精査・WEBサイト造成による受け入れ導線の構築・情報の初期発信）

課題

- ❑ 広域連携事業における移動距離の問題についてツアー行程、ツアー期間などの工夫が求められる。
- ❑ 広域連携事業における関係者の意思の疎通や連帯感の強化、人材を育成していくことが求められる。
- ❑ 里山と里海の連環についての説明やストーリーをわかりやすく表現する必要がある。

◆岡山里山里海UNIVERSITYプロジェクト (真庭市 備前市 笠岡市 広域3エリア) の連携体制構築及び人材の育成

本プロジェクトは、広域3エリアの連携体制の構築が重要である。しかし、各拠点ともに既存業務も忙しい中、体制構築は容易ではなかった。里山⇄里海で打ち合わせ・訪問を繰り返す中で、自然保全活動を自分のビジネスとして確立するために努力している、各拠点の若手30代の想いが繋がった。そのメンバーを連携窓口担当とし、長年保全活動に従事してきたベテラン勢がサポートする形で連携体制の土台構築ができた。



分科会の設置

各分野ごとの役割分担、責任区分を明確化し、分科会ごとに議論する体制を整えた。

コンテンツ分科会

WEBページ分科会

モニターツアー分科会

インバウンド分科会

モニターツアー（11月実施予定）

里山里海の連環を体感できるモデルコースを策定してモニタリングを実施。それぞれ対象を関連する有識メンバーを招聘してコンテンツの磨き上げに関して多様な視点でのヒヤリング

11/13-14 北房～日生ルート：環境関心層や自然愛好・地域接点を望む日本人向け（B2C/B2B含め）

モニター参加者（4名）：

株式会社アスエク（リジェネラティブツーリズムメディア運営及び地域活性コンサルティング）

株式会社大広（ネイチャーポジティブ文脈の事業開発チーム）

パタゴニア（ネイチャーツアーガイド／通訳案内士）、メディア「idea for good」記者（サステナビリティ専門）

11/26-27 北房～笠岡ルート：自然愛好及びアドベンチャーツーリズム嗜好・日本ローカルやサステナ嗜好

モニター参加者（4名）：

- ・（ドイツ出身・女性）
- ・（アメリカ出身・男性）
- ・（中国出身・男性）

+メディア「ZEN BIRD」記者（外国人向け日本式サステナビリティテーマのメディア）

<提供コンテンツ事例>

・牡蠣いかだ用ヒノキの間伐体験

意図：森づくりの現場から、海の豊かさを支えるしくみを体験する

・文化庁指定・有形文化財の古民家レストランで里山里海オリジナルメニューのお食事

意図：食を通して、森と海の循環を“味わい”として実感してもらう。

・底曳き網漁業体験

意図：海の恵みを支える「現場の知恵」と「生きた営み」を体感する。

・ひなせうみラボ・シーカヤック体験

意図：海を“俯瞰して見る”ことで、森と海のつながりを再確認する。

・頭島漁師料理体験

意図：海から食卓までの“いのちのストーリー”を自分の手でたどる。

《北房～日生ルート 体験の様子》



カスタマージャーニーマップ

顧客が岡山里山里海UNIVERCITYを認知～ツアーに参加～会員登録に至るまでの一連のプロセスを、下記のように想定し、各タッチポイントにおける課題やニーズを把握し、最適なマーケティング施策やサービス改善に役立てる。

<日本人>

①興味／参加

- ・WEBや関連記事をみて里山里海の保全や体験に興味を持った。
- ・日本一のホタル観賞や牡蠣イカダの乗る体験がパッケージされたツアーに興味を持った。
- ・ホタル鑑賞や木こり体験、海洋保全体験プログラムなどの体験企画に参加してみたいと思った。
- ・里海米の羽釜ごはん、鍾乳洞の水で作った地酒、特殊冷凍で年中食べられる牡蠣に興味があった。

②体験に参加して受入先のコンテンツ講師ガイド（レンジャー）が分かりやすく楽しく体験させてくれた。

③WEB会員に登録して様々保全イベントや自然活動などのコミュニティプログラムに興味をもち接点が生まれた。 （レンジャーの方々との交流が生まれた）

④会員向けプログラムや会員向けツアーに参加するようになった。

- ・子どもの教育や経験値を高めるために定期的に活動に参加するようになった。
- ・学校、クラス、スポ少の体験学習として申し込みした。会社の研修として申し込みした。
- ・旅行代理店の教育旅行として学校から参加した。

⑥里山里海での生活に興味湧き移住や他拠点生活などの選択肢を考えるようになった。レンジャーとしての活動に興味を持った。

<インバウンド>

①SNSや英語記事を読んで興味を持った。知人の日本在住の外国人から口コミを聞いた。日本のローカルの文化自然体験を探していてヒットした。

②ツアーに参加してコンテンツを提供した漁師（fisherman）や山守（Lumberjack）などの取り組みや文化に興味を持ち友人やSNSで紹介した。

コミュニティコンセプト

岡山県の豊かな里山と里海を舞台に、林業や漁業といった一次産業の「新しい働き方」や「生き方」を体験できる豊かさや楽しさの入り口的なプログラムであることを強調。特にサステナビリティやリジェネレーション、地域活性に関心のある層、または自然体験や日本的なライフスタイルに興味を持つインバウンド層に向けて、「大人のごっこ遊び」のような探求（クエスト）と、地域への深い繋がりを感じられる体験価値を訴求。単なる観光ではなく、自律的に学び、発見し、仲間と未来を共創しながら持続的に関わりが持てることを表現。

○「JAPAN SATOYAMA-SATOUMI EXPERIENCE」（日本のリアルな里山里海の旅）」（案）

○「Be a Guardian of the Earth: Japanese SATOYAMA-SATOUMI Experience」（案）

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- ❑ 瀬戸内海の栄養塩の不足を改善するためには森林放棄の拡大で密集してしまった人工林を間伐して太陽光が地面に当たるようにして多様な草や広葉樹を繁殖させ豊かな栄養が流れていくようにする必要がある。
- ❑ ホタルを守るための川ごみ回収やカワニナの放流は川の水質の状態、海の状態を知るための指標となる。
- ❑ 瀬戸内海の生物を増やすには漁協や関係者だけでなく地元住民や本事業で訪れる人にアマモの再生体験に参加してもらう。瀬戸内海を多様な生物が生息する海に再生するには海洋牧場や漁礁を設置活用して稚魚から成魚の間の保護が必要である。

活用の具体的内容・方法

- ❑ 間伐作業で牡蠣筏用のヒノキの皮むきなどを体験学習した上で、筏の組み立て場や牡蠣筏が並ぶ海を展望することで、栄養塩の連環を理解してもらう植林作業に参加してもらう。
- ❑ 鍾乳洞や湧き水を訪問して水の始まりを体感する。
- ❑ ホタルのエサ、カワニナを用水路で採取して本流に放流する作業や川ごみひろいに参加してホタル観賞に再来してもらう。
- ❑ 牡蠣殻を粉砕した肥料による生産作業を体験する。
牡蠣殻肥料散布体験・里海米、野菜を収穫してもらう
- ❑ アマモの種採り作業に参加する。
- ❑ 漁礁を引き上げ生き物観察する。

活用から保全への還元方法

- ❑ 保全作業を体験することで保全の大切さを理解してもらえる。環境保護活動への参加推進、普及啓発に役立つ。
- ❑ 保全作業の体験コンテンツで収益を得ることで、保全にかかる費用捻出につながる体制を構築する。
- ❑ 楽しい体験を入り口に学術的に深堀する人、共に保全に加わりたい人などを増やすことで、人材育成につなげる。
- ❑ 良好な環境を体感することで移住定住推進の一助となる。
- ❑ 日本の豊かな環境や保全に携わる人の素晴らしさをインバウンドにも発信することで良好な環境への注目度を高め、地域における保全の機運を醸成する

【R8年度取組】

広域3エリアの横断組織の 設立準備

- 岡山里山里海ユニバーシティプロジェクト主催のフォーラム開催
- 規約を作り組織運営を進める。
- コミュニティPRを開始する。
 - ①WEBサイト・SNSからの発信
 - ②ストーリーを分かりやすくする
 - ③行政、観光団体への協力要請

営業戦略の策定及び検証 一般向けモニター実施 キックオフイベント開催

- 営業戦略を策定して営業活動のスケジュールを組み立てる。
- 一般向けモニターツアーの募集、実施。教育団体向けのプログラムの企画実施
- 関連キックオフイベント開催
- 移動距離の問題解決に向けた検証を行う。

受入人材の育成・拡充

- 地域のヒーロー的な表現でコンテンツを提供するメンバーをレンジャーとする。ガイドとしての表現方法や受入方法を磨き上げ、満足度の向上を目指す。海山それぞれのレンジャー、コンテンツを増やしていく。

保全との連携体制 (運用) の構築

- 保全専門分科会を設置して保全サイドにおける環境情勢検証と保全の参画者拡大に向けたツアー、コンテンツ販売との整合性を図る。ツアー/コンテンツ分科会との協議を行う。

想定する成果

- フォーラムの開催により3エリアが一つの集団として活動しコミュニティへの参画を求めていることを広く発信できる。新しい里山里海保全と観光がマッチングした事業として認知度が高まる。

想定する成果

- 営業戦略の実施により自走時の販売活動を直ちに行える。
- 教育団体向けの企画を実施することで次世代育成、販路拡大につながる。
- 関連イベントの開催で販売情報を拡散できる。

想定する成果

- レンジャーとして若い有識者や講師の参画が増える。
10名→20名
- コンテンツ数 20体験→30体験
- ストーリーを分かりやすく伝える満足度の高いガイド・コンテンツの提供

想定する成果

- 保全とツアー/コンテンツ販売のバランスに配慮した運営方法を共有し、保全への還元の仕組みを構築することで偏りのない新しい環境保全のモデルを構築できる。

R8年度のゴール

- モニターツアー、体験コンテンツのによりコミュニティ会員の拡大（個人100名・団体10社）を達成。会員によるツアー・体験コンテンツの情報拡散が行われ、環境保全活動に関わる人口が増加する。
- 各施策実施及び海外コミュニティへの発信で国外からの参加が発生して情報が拡散されPRにつながる。

想定される課題

- エリアの過疎化、少子高齢化、地方経済停滞などによる事業成果への影響
- 里山里海連環の学術的、科学的要素に対する理解の不足
- 公共交通機関などの路線廃止 2次交通の整備停滞